

社会的責任に関する円卓会議 第5回地球規模WG会合 議事要旨

日時：2010年12月10日（金） 15時30分~18時30分

場所：主婦会館プラザエフ 5F 第2会議室

出席者（* …WG委員）：

事業者団体

板清 浩二 公営社団法人経済同友会

労働組合

曾根崎 義治* 日本労働組合総連合会

消費者団体

高橋 怜一* 日本生活協同組合連合会

菅 いづみ* 全国消費者団体連絡会

金融セクター

金井 司* 住友信託銀行

政府

平塚 敦之* 経済産業省 経済産業政策局 企業行動課

中村 正大 経済産業省 貿易経済協力局 通商金融・経済協力課

小町 僚明 経済産業省 貿易経済協力局 通商金融・経済協力課

庄子 真憲* 環境省 総合環境政策局 総務課

清野 達男 環境省 地球環境局国際連携課

高橋 一彰 環境省 自然環境計画課生物多様性地域戦略企画室

中井 裕一 外務省 国際協力局 地球規模課題総括課

久保田 竜徳 財務省 大臣官房総合政策課

中嶋 健次* 内閣府

川島 悟一 内閣府

専門家

渡辺 龍也* 東京経済大学

NPO/NGO

小松 豊明* 特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会

開澤 真一郎* 特定非営利活動法人 NICE (ナイス=日本国際ワークキャンプセンター)

堀江 良彰* 特定非営利活動法人 難民を助ける会

吉澤 有紀* 特定非営利活動法人 難民を助ける会

星野 智子* 一般社団法人 環境パートナーシップ会議 (EPC) *

宮下 恵* 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC)

岩附 由香* 特定非営利活動法人 ACE

植木 美穂 特定非営利活動法人 ACE

その他

佐藤 正弘 地球サミット 2012Japan 準備事務局

1. 前回議事録の振り返り

- ・資料に基づき、議事録の振り返りを行った。合同会議にて、協働プロジェクトの地球サミットフォーラムについては、労働や経済同友会などから積極的な賛成をいただいた。

2. 協働プロジェクト案「地球サミット 2012 日本フォーラム」について

- ー協働戦略にどのように位置づけていくのかをご検討いただきたい。
- ーフォーラムについての今後の検討プロセスについて提案。
 - ・来年1月を目途に、フォーラム立ち上げに関心を有するステークホルダーの実務担当で準備会合を開催し、フォーラムの在り方について検討を行う
 - ・準備会合で設立の方向で合意が得られれば、設立趣意書などの作成に取り掛かり、協働戦略に盛り込む文言について最終判断する予定。
- ー「地球サミット 2012 日本フォーラム」のイメージについて、資料に沿って説明。
 - ・本日は単なるイメージとして用意しただけなので、実際には準備会合で検討していく。
- ー環境省には引き続き検討をお願いし、他の各ステークホルダーからは準備会合に担当者を出して、フォーラムの在り方について議論を進めていくことを確認。

ー以下のような質疑応答、コメント及び議論があった。

- ・参加者は省の代表となるのか。個人としての資格か。個人資格の参加の場合、異動などにより継続的な参加は難しいかもしれない。

⇒準備委員は個人資格で問題ない。フォーラム自身には、ステークホルダーの代表としての参加を想定しているが、各ステークホルダーにゆだねる。

- ・協働プロジェクトとしてはとても良い。ターゲットが明確。国連環境計画のイニシアチブとしても地球サミットが上がってきている。世界的な動きもあるので、賛成。
- ・環境省は支持を留保する。構造上、円卓会議とは切り離されているのか。円卓会議と当フォーラムの位置づけが不明確。サミットという言葉は、国際的に使われていない。リオ+20へのインプットは難しいのでは。

⇒円卓会議は初めての試みであり、進め方は試行錯誤している。合同会議で提示されている協働戦略の構成案に基づいて、検討を進めている。行動戦略策定後は、2年を目途に実行していく予定である。それ以降は今後の議論である。

⇒協働プロジェクトは、WG内の位置づけではなく、円卓会議全体で取り組んでいるもの。その構成で行うプロジェクトとして、提案している。協働プロジェクトは円卓会議の枠組み内でも外でもありえる。今回のフォーラムもどちらの形もとれるが、提案者は円

卓会議の外を想定している。参加者がやりやすい形で検討していく。
⇒環境省の参加なしではできないプロジェクトである。是非、一緒にやる方向で議論を進めていきたい。

・プロセスは後でも変えられるもの。趣旨については環境省はどのように考えているか。また、他に重複する取り組みなどがあるのであれば、教えてほしい。

⇒趣旨にも賛同していない。円卓会議・政府から独立して行うのであれば、まだ賛成。

⇒円卓会議は政府傘下ではない。

・今後も継続して参加してもらえるのか。

⇒(環境省)しない。持ち帰り検討する。

3. 行動計画素案に関する協議

3-1 提出する体裁案、構成についての確認

－12/24 の合同会議に素案を提出する。行動計画は、6 ページまでと決められている。以下、補足説明と本日の検討事項。

- ・「1 取り組むべき課題」に水が入っている。入れるか。
- ・「2 成果目標」はまとめたものを記載しているが、実際は別紙素案シートに上がっているボリュームがある。まとめた形式でよいか。
- ・「3 各主体の行動」は、作成当初のもので、その後のコメントは反映されていないもの。
- ・「4 主体間の協働した取り組み」「6 政府への提言」も同様。

－「水」について

・今後見直して、具体的な行動を追加できるのであれば、入れておきたい。見直しができないのであれば、削除してはどうか。

⇒一度決めた文書は変わらないので、削除した場合はやらないことになる。その後の提案と整合性がとれないので、検討課題としては削除し、上記の地球規模課題の一つとして残す。

－体裁について

・「3 各ステークホルダー／主体の行動」、「4 主体間の協働した取り組み」、「5 協働プロジェクト案」と取り組みが3段階あるのか。3と4は重なることがあると思うので、もう少し整理してはどうか。各主体の取り組みは3のみで、4はあくまで協働プロジェクトのみにしてはどうか。マンパワー的にも全て行うことはできない。

⇒構成案にならって作っているのでこのような分類になっている。

・「2 成果目標」に数値目標を設定しないのか。本質的な成果をどこまで求めるのか。本質的な成果を図る手法だけでも決めたほうがよいのではないか。

⇒数値目標は一部入っている。

⇒政府は数値目標が資料に入っていると、その実現可能性を考えるため、慎重になる。バランスよく。責任は政府だけではないということは分かっているが、そういうものである。

⇒協働が大きな目的なので、今の段階では数値目標はなくてもよいのではないか。

・関係者は今の参加者だけではない。この場で一緒に話していくことも必要では。資料だけ読んで理解することは難しい。

⇒（結論）数値目標を入れることで、このマルチステークホルダーでの取り組み自体ができなくなるのであれば、あえて入れないことにする。活動目標レベルが現実的。

・協働プロジェクト案を2つ3つに絞るよう言われることはないのか。

⇒「ともに生きる」WGは3つ、地域WGは7つ挙げられている。まだどのWGも絞られていない状態。今後、削られる可能性はあるが、現時点では決まっていない。

⇒開発と環境で大きく2つにわけるという方法もある。

⇒取り組める課題数は、実際の行動への移し方次第。できることをやろう、という形であれば、多くても問題はないのではないか。

ー3-2 素案の内容に関する意見交換

（素案シートに記載、別紙参照）

4. 今後の議論の進め方及び提出に向けたプロセスの確認

～12/17 MLにて、上記3で持ち帰りとなったものを提出する（各委員）

12/21AM 素案シートの内容を行動計画素案ドラフトに落とす（主幹事）

～12/22 MLにて、行動計画素案ドラフトへのコメントを寄せる（各委員）
行動計画案を集約し、内閣府へ提出する（主幹事）

12/24AM 合同委員会

次回会合

2011年1月10日～21日の間に実施予定。日時は後日調整の上決定する。

以上